

まほらいな市民大学の様子

令和6年4月18日（木）

『 国際協力活動について

～ラオスでの JICA シニア海外ボランティア活動～ 』

講師 JICA シニア海外ボランティア 竹内 茂 氏



竹内氏は退職後、二本松市の J I C A 訓練校で学ばれ、「ラオス」にシニア海外ボランティアとして派遣され活動されました。国際協力の意識を呼び起こす「3 択クイズ」や、日本も終戦時いろんな国から支援してもらったり、東日本大震災や能登半島地震などで世界の国から支援されたりしている話など、「世界はつながっていて、世界の人々みんなが幸せを望んでいる」といった思いがあり、国際協力の重要性が強く伝わってきました。

「ラオスでの活動」の話では、人々のおおらかな生活の反面、収入(賃金)、治安、医療、衛生などで不安な面があることなど、日本と大きな違いがあることがわかりました。「ラオハンディクラフト協会」を設立してのマーケティング活動支援や、ファッションショーを開催して産業振興にかかわった話。そして、世界に関心を持ち、外国の状況を理解すること。「国際協力は身近なことから始められる」といった話がありました。

学生からは「竹内先生のご講演を拝聴し、ご退職後国際協力活動に従事された竹内先生の情熱と積極的な姿勢に頭が下がります。ラオスのことを楽しく語られ、興味深くお聴きしました。」「現地の社会生活に慣れるまで大変だったと思います。国際協力を実践された行動力は素晴らしいと感じました。私自身、国際協力とは言わないまでも、何かに挑戦する気持ちを持っていたいと思います。」「SDG s 達成に向けて1つでも自分の出来ることを実践していきたい。」といった感想がありました。